

第1回 学校運営協議会

司会進行：石原副会長

1 はじめの言葉 (副会長)

2 会長あいさつ (小田切会長)

小田切会長：今までと違った環境でたいへんだが工夫して運営していきたい。子どもを育てるのに教師と学運協と協力していきたい。コミュニティの語源はスペイン発祥と聞く。よろしくお願いします。

3 学校長あいさつ

平塚校長：この4月に赴任した。ご支援ご協力ありがとうございます。3年間のCSの指定を受けた3年目である。今週からやっと学校が再開した。コロナ陽性者が甲斐市内中学校で発生したので気をつけていきたい。

かつて7年間本校でお世話になった。そのころはCSがはじまったばかりで手探りでやっていた覚えがある。今日まで迎えられたのはみなさんのおかげである。今後の状況(感染症)はまだ分からないが、地域の方々からの地域の思いや支援やご協力、期待を感じている。ご尽力とご支援ありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

4 話し合い (座長：小田切会長)

(1) 協議事項

① 今年度の活動概要について

校長：資料P4)年4回の開催を3回に変更した。

資料P11) 昨年の様子から、学校の中だけではできないことのご支援をよろしくお願いします。

3月からの臨時休業があったが、種蒔きや畑の方はやっていかなくはならなかったのをお願いしてきた。おやじの会のプール清掃は中止。避難所キャンプも中止になる。

資料P21-22)7/21日が終業式だったが授業時数確保のため、7/30日(木)2学期始業式は、8/19か20日になりそうである。修学旅行も10月に延期になる。そのほか、大幅に行事が変更になる。現在再計画中である。

② 今年度の学校運営の基本方針・予算等について (校長・中嶋)

校長：資料P12-16) 県、市、児童の実態から設定した。重点は3点(グランドデザイン参照)…昨年度の食育も活用したい。CSを活用して地域の中心としての役割も担いた

い。これまでの積み重ねをもとにさらに発展させていきたい。

会長：基本方針は、ぶれる物ではないと思うので踏襲しながら進めていけると良い。

【学校予算について】

中嶋：維持運営費の減額など、全体としてやや減額になっている。教科書改定等による増額、光熱費の増額がある。十分な予算ではないがなんとかしている。

会長：応援できることは、予算についても行っていきたい。要望を出して欲しい。

日永 T：CS では、独自のファンドをもっているところもある。今までは人的な支援が中心だったかもしれないが、今後金銭・物的にも支援ができると良いと思う。

小野 T：甲斐市では、創甲斐教育の一環として CS をおこなっている。本校の CS は 11 年目で山梨県第 1 号である。平成 30 年度から令和 2 年度まで CS 指定している。今年が 3 年目、最終年度である。

甲斐市として 11 年間の取組を通して CS のよい成果ができたこと、地域と学校が親密になったこと。CS コーディネーターも配置になり、実績を上げてきた。

今後、4 つの重点項目を進めていきたい。①地域と学校をつなぎ、持続可能な仕組みをつくる。②地域との連携、地域教材発掘。③CS コーディネーターと地域のつながり、④CS 地域人材（学校応援団の新規）の活用等
人的措置について CS コーディネーターの手当増額措置。配置時間増の予算をもった。

【参加者自己紹介】

(2) その他

- ① 地域と連携・協働して取り組みたい学習活動について（学年主任等）

【学校応援団の活動計画と要望等】

資料 P23-24

1 年…生活・体育・図工等、例年の活動をお願いします。生活科ポップコーン作り、朝顔リース作り。動物のふれあい協力。昔の遊びなどを計画中。3密を避ける検討をしている。

2 年…生活科「野菜づくり名人」夏・冬やさい（大根づくり）、作物は功刀さん。人とつながるということで関わっていただいている。町たんけんで 6 月に歩いてみる予定である。

10 月にも行きたい地域に行く引率。カッターナイフの指導。馬頭琴…山田さん。

3 年…総合学習（地区探検・昔のもの・遺産・作物）、体育・算数、総合・社会で地域を探る。6 月は校外へは自粛し、講師としてお話を聞く会を計画している。国語で大豆をする。豆腐作りができるよう計画している。他にそろばん、のこぎりの支援を。

4 年…総合学習（命について考える、お年寄りとふれ合う）多教科に渡ってご支援を。水…石原さん、星…日永 T。さつまいもづくり。ひかりの里との交流は可能であれば行い

たい。3年でそろばん学習ができなかったので、今年支援をお願いしたい。

5年…総合学習（米作り：花田さん・食・フードマイレージ：山田さん）社会科と連携して、家庭科（ミシン）・音楽（琴）。米作りについても我々教師では伝えられないことを深い学びに結びつく活動にしていきたい。田植え体験も行う。

6年…総合学習（地域との連携、歴史、人権）双葉の紹介と交流会など、社会科（水墨画、山田さんの平和講話、生け花等）、音楽等。他に功刀さんにジャガイモ植えをすでに終えていただいている。

学校・下校見守り、ふたすけおはなし隊、ふたすけ通信、にしの日、双葉音頭、未満児保育、特にCS公開等あるのでよろしくお願いします。

② その他

CS山本：学運協の連絡網を作ったので確認を。

150周年に向けて、地域の方々と航空写真撮影、記念式典など考えられるが、新学習指導要領で授業時間増による行事時数削減や運営予算面など課題があるので、学校側の考え方を基本にバックアップする体制でいくことを確認する。

次回は、11月12日（木）西小まつり参観後（午前11：35頃）

以上



第2回 学校運営協議会

司会進行：副会長（石原）

1 はじめの言葉（石原副会長）

2 会長あいさつ（小田切会長）

会長：今日はできるだけ早く終われるようにご協力いただきたい。コロナ感染症でたいへんだがよろしく申し上げます。本校でもいつかかってもおかしくない状況なので、差別や偏見のない対応をお願いします。

3 学校長あいさつ

本日は、寒い中ありがとうございます。コロナウイルス感染症については、1学期から取り組んで来ている。お便りを通じて保護者にも換気・啓蒙してきている。当初、今日は「西小まつり」に合わせて開催予定だったが、ビデオ撮りだったため延期しました。子どもたちの学びを滞らせるわけにはいかないので努力しています。この会を通じて、今後の対応についてご理解・協力・アドバイス等をいただきたいと思います。広くご意見をいただいて今後の学校運営を考えていきたい。

4 話し合い（座長：小田切会長）

(1) 協議 1・2学期の教育活動について

① 学校運営について（校長） 資料P1～4

- ・応援団活動実績について、1学期は、ほとんど活動することができなかったが、2学期以降、1年生～6年生まで新しい活動が入ってきている。
- ・延期の延期で12月に修学旅行を行った。子どもたちは特に今のところ変化なく元気に過ごしている。今後2週間ほどは様子を見る必要がある。資料P5
- ・代替教員が見つからない現状がある。
- ・学習支援員が新たに4名加わった。資料P6

- ・いじめについては、アンケートや連絡・観察などで早期に探知し保護者を交えて対応している。報連相を密にしている。これらについては調査し指導を行い、どれも現在解決していて深刻な内容ではないといえるが、引き続き今後も見守りたい。
- ・長欠については、6年生男子105日欠席が1名、15日以上欠席は4名いる。
- ・「生きる力」の育成について、主体的に考え、判断し、行動できる子どもを育てる必

要がある。情操面・体育面からも取組をしている。

② P T A活動について（教頭） 資料 p 8 - 9

- ・来年度は、コロナ禍の影響でP 9のように保健給食の役員を他の専門部に割り振って活動していきたい。
- ・P T Aの本部役員、新5年生の新役員は選出された。2月のP T A学年部会で4年生以下は選出される予定である。

会 長：今後の体制について校長より説明を。

校 長：たいへん実績を積んできている本校のC Sであるが、継続的・安定的・持続可能な体制を整えていきたい。全国をみても同じような課題を抱えている。昨年度も挙げた4つ：①持続可能な仕組みをつくる。

③ いじめ・不登校・体罰等への対応について（校長）

Q会長：いじめで重大事態とはどのような内容なのか？

A校長：身体や心の苦痛が、傷や命に関わるような事態に至るようなことを重大事態と捉えて対応をしている。場合によっては家庭訪問やカウンセリングなども行っている。本校の場合、悪口やけんかなどでの罵声などに起因するケースが多い

A小山田：新しく法律に制定されたいじめ対策基本法に規定されている。不登校30日についても重大事態と規定されている。山梨県の中でも甲斐市でも大きな事態についてはない。

会長：親御さんの身になって親身になって対応して欲しい。

P会長：どこまでが「けんか」でどこまでが「いじめ」か尺度が難しい。親としても家庭によってちがう。

今の時代は、その辺の区別が難しい。

A校長：おっしゃるような状況になったときは子どもが教えてくれるし、様子がおかしいと思ったら聞き取りを行っている。重要なことなので、道徳の他、担任が子どもに考えて欲しいこと等、学級活動の時間などを使って適切に対応している。

(2) 公開研究会（C S）について（研究主任） 資料参照P 1 1

(3) 今後の行事予定について（教務主任）資料参照P 1 0

(4) 令和3年度の学校体制について（校長）

- ・来年度入学予定は、43名である。新4年生が40名になり、単級になってしまう。

Q会長：詳しい学級人数の規準を教えてください。

A小山田：県の事業で、1年生の学級について25人学級を打ち出しているが、おそらく実

施されると思う。

Q会長：子どもの実態ではなくて人数だけで規定されているのは疑問が残る。

(5) その他

① 令和3年度学校予算について（教頭、事務）資料P13

・どうしても学校予算枠が決まっているので、学校側で辞退したものも含まれている。

（事務）

Q日永T：GIGA スクール構想で具体的にはどのような内容なのか？

A：小山田：国のGIGA スクール構想である。簡単に言えば、一人1台PCを持たせるというもの。コロナ渦の影響で3年計画が、1年計画で次年度から活用できるように工事を進めている。

Q日永T：今使っている児童机が気になる。教室が狭い。一教室の人数や机の関係が矛盾している。

A：小山田：その通りであるが、例えば分散登校であるとか、配慮しなければならないが、すべてをクリアして教育活動することは不可能に近い。これが現状である。可能な限り教育予算を拡大し環境整備が急がれる。

② その他（校長）

・「つばさプロジェクトについて」着れなくなった中学校制服をリユースするプロジェクトの提言があったが、学運協でどう対応するか協議していただきたい。資料P17

Q P会長：バザーでも体育着に人気があるので、学校でやったらどうか？

必要な家庭もあると思うので、進めたらどうか。委員会活動ではできないか？

A校長：制服業者もある。本校の職員の業務とすることは難しい。

会長：まずは、当事者の保護者PTAの中で話し合ってみたらどうか？そこで話し合われたことをここに持ってきてくださればそれを協議すれば良いと思う。

小山田：CSの研究について、三年間の指定があって今年度が三年目である。来年度以降については、（内々であるが）、CSについては次年度以降も継続となるだろう。

日永T：コロナ渦の影響で、現在の環境が適切といえるか目に見えるようにはなってきたが、小学校では40人近い教室内で学習することは困難であるので、時差登校などの対応をすべきだが、職員数や業務過多になってしまいこれも現実的ではない。

・いじめの認知が今は広がっている。些細なことであっても重大事態につながる事があるので、情報共有しながら対応されていると感じた。

・「つばさプロジェクト」については、たいへん良いことではあるが、学校の業務と

して行うのは無理がある。PTAやボランティアなどから当たっていくのが良いと思う。

5 第2回議事録の発表（教務主任）

次回は、令和3年2月26日（金）15：00－（多目）

6 終わりのことば（進行）

・資料を前もって送っていただいて良かったので、次回もそのようにして実施していきたい。

以上



第3回 学校運営協議会

司会進行：石原副会長

記録：小林教務主任

1 はじめの言葉 (石原) 寒くなったので、早く話し合いを終わらせるようにご協力をお願いする

2 会長あいさつ (小田切会長)

会長：オリンピックが開催される予定だが、開催できるといいと思う。今日はこのような状況なので早く終われるようにご協力をお願いしたい。

3 学校長あいさつ

校長：・本日は、ありがとうございます。来年度へ向けて、総括と見通しについて協議をお願いします。本来は、学校支援地域会議が開かれるはずだったが、学運協とメンバーがほぼ重なることから今年は開催を避けた。しかし、児童が感謝の意を表したいということで、この場を借りて児童代表があいさつします。ご了承ください。

【児童会の本部役員が、代表でお礼のあいさつ】

- ・昨日、6年生を送る会を行った。校庭で録画した物や学年の出し物を前もって録画しておいてコロナ対策をして体育館で発表を行った。全児童が一同に介することが少なかったので意義あるものになった。
- ・CS公開授業研究会は、成功裏に終わった。ご支援・ご協力ありがとうございました。
- ・卒業式の練習も始まった。満足感を持って卒業させたい。
- ・日ごろから学校応援団の活動とご支援ありがとうございます。

4 話し合い・協議 (議長：小田切会長)

(6) 協議

① 本年度の活動反省 (校長) 資料

校長：

【成果】

・CS公開授業研究会が、一部割愛しながらコロナ対策をして成功裏に終わることができた。

【課題】

- ・学運教の持続可能な運営が難しいので、知恵を出し合って行きたい。
- ・コロナの休業で5月始まりだったが、よく活動していただいた。新しいところで3年のPCや5年バスケットが新規に行われた。
- ・プール、子育て支援はできなかった。ふたすけ通信も人がいないため滞った。

② いじめ・不登校・体罰への対応について（校長）

- ・2学期末までに13件。叩く、物や人に当たるという事案があった。その時には、迅速に対応して指導して解決している。3学期は15件。担任が現在調査と対応をしている。
- ・不登校1名ある。5年生。中学校の説明会では、体育館で一緒に参加できなかったの、個別にした。
- ・1年で2名いる。一人は50日である。昼間少し登校できる。
- ・体罰はないがほとんどである。話に集中していないとして、「背中を叩かれた。注意されて立たされた」という記述があった。どちらも体罰にはチェックはなかった。
- ・教頭が、新聞記事をコピーして配付している。いじめアンケート・体罰アンケートを行った。その結果については対処している最中である。

日永：15件のいじめについて教師はどう捉えたか？

校長：全部を事前に察知していたわけではないが、調べて対処した。

米山：背中を叩かれた・立たされたについて事実確認をしたか？

校長：児童が、指導について納得していないから記述されたと思うのでこれから行う予定である。

米山：不登校は、増えたか？ コロナの影響か？

校長：すこし増えたが、コロナの影響というよりは個人内の問題でゲームなどが主である。

③ 学校評価結果とその考察（教頭）資料P2～

【課題】

- ・読書離れとスマホ・ゲームが増加している。
- ・タブレット（ICT）を活用するための支援募集をしていく。
- ・外国語ボランティアの支援募集をしていく。

中島：ニュースで事件が流れている。SNSが低年齢化して小学生が事件に巻き込まれることが多くなってきている。家庭では使用について話し合っていると思うが、学校としても「怖さ・危険」についてよく指導をして欲しい。

教頭：4年生でスマホトラブルについての講演を行っている。保健体育などでも行っている

が、低学年からできるようにしていきたい。

日永：家庭・PTAとの連携が必要である。

校長：7ページの活動の広報について・・・5年の米作りについて応援していただいているが、広報を見て先日、育成会の地域の方きて、「広報を見て感動した。この地域には文化財がたくさんあるので、自分も係わりたい」と申し出があった。

日永：子どもたちが発信することが大切。目にとめるような読み手や聞き手を意識した発信を望む。

読書離れとスマホには関係があるだろう。一方でタブレット端末を活用した授業も進められるので、家庭学習や自主学習の中身を熟考する必要がある。

会長：E-スポーツなども大人気である。オリンピックにもなっている。親としてどう対応したらいいか迷いがある。

日永：ゲームが職業になったりする。スマホで本を読むなどもある。一方でトラブルも多くなる。どう指導すべきか考えて行く必要がある。

豊田：スマホやゲームについては、学校の外（家庭にいるとき）の事なので、家庭教育が一番必要だと考える。学校でなんとかするのではなく、原点は家庭教育だと思うので、家庭教育力をつけるように働きかけていくことが必要である。

④ ボランティア活動の手引きについて（校長）

日永：新規で募集を募る物についても入れていく方が良い。

⑤ 150周年記念について（山本）資料p14

山本：140周年の時は、西小まつりの時に合わせて行った。映像や弁当も出した。記念誌も出した。

そのために協賛金を集めた。

山田：頌徳碑についての説明…本校に28年にわたって甚大な功績があった下条氏の碑である。歴史に残る偉業を称えることを何かの形で知らせる必要があるのではないかと考える。記念誌に入れるべきではないかと考える。

日永：CSの素地がこの時代からあったとも考えられる。

会長：140周年の時には、話が出なかったのが知らなかったが、今回取り上げようとした経緯は？

山田：時間的な余裕がなかったから。

日永：B案について、CSになって10年たったので、CSの素地ができていたということで結びつくような気がする。

山本：150年の歴史にはいろいろなことがあったと思うし、功績があった方もたくさんいると思う。下条氏の子孫まで調べて行くのはたいへんではないか。児童や先生のことを考えると負担も多くなるか。

阿部：150周年をすることは賛成である。3年あるので、準備委員会を設置して、子どもたちにも参加させることはいいと思う。(タイムカプセルみたいな)

豊田：150周年をすることは賛成である。下条氏だけを取り上げると問題が出ることも危惧されるので、140年～10年間のことをまとめて行く形がいいと思う。

会長：やる場合には準備委員会が必要だと思う。考えていきたい。

会長：学運協として先日要望書を出した。山本CSコーディネーターについても待遇改善と業務範囲について要望した。後日、返答がある。

⑥ その他

小山田指導監より

- ・活発な意見が交わされていることに感銘を受けた。取組が10年を迎え、これが大きな成果だなと感じるし、感謝している。市内外に大きな影響を与えていることがありがたい。
- ・コーディネーターの割り増しについて、来年度は現状でお願いしたい。

(2) 連絡

① 来年度の学校体制について (校長)

校長：一人1台端末の活用ということで、ICT活用としたい。

p17で示したので確認して欲しい。

日永：個別の学習で活用するように。個々の先生に任せるのではなく、個別最適化のために端末を使うべきである。全員で同じ事に使うため(一斉で同じ課題)ではないのが本来の導入意図であるので間違えないようにお願いしたい。

② 来年度の予定について (教頭) 資料p18

5 第3回議事録の発表と次回の予定について (教務主任)

6 終わりのことば (石原副会長)

以上

